

## 4. 居場所の外側と連携するヒント - 多大学の学生たちとのつながりづくり

特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

### 「学生という半分大人で半分子供という人材」

学生は年齢こそ成人に近いがその多くが社会とは隔離された空間である「学校(大学)」の中で1日の大部分を過ごしている。また、学校というバックグラウンドは失敗もその学生のキャリアの糧にしていく土壌がある。以上より、学生のもつ発想力や企画力は非常に柔軟である。特に、学習などの教育支援については、学生は「教育」という過程の上にあるため、そのニーズや本質に近い発想力を発揮してくれる。例えば、進路の選択等については、その形体は年々変化しているので、子どもたちにとって地域の大人よりもより実践モデルに近い。また、支援者である学生にとっても被災地や地域に触れることで自身の進路についても考える機会となり、それがまた被支援者である子どもたちにも影響を与える。特に大学がない県北では大学生と直接触れ合う機会は貴重でもあり、子供達のキャリアビジョンにも広がりを与える。上記の背景より、宮城教育大学を中心に学生ボランティアたちは、HSFのバックアップのもと組織化をおこない震災関連の課題だけではなくまち作りのアクターへとこの3年間で成長した。

